

とうきょう すくわくプログラム実践報告書(八王子市)

施設名	八王子市立千人保育園
-----	------------

1. 活動のテーマ

<テーマ>

表現（楽器遊び）

<テーマの設定理由>

保育の中で楽器遊びを行った際、楽器ごとに形や出る音が異なること、扱い方によって出る音の大きさの違いなどに気が付く姿が見られた。保育の中で用意した楽器は3種類程だったが、「他にはどんな楽器があるんだろう」「どんな音が出るのかな」と疑問に感じたり、「こんな楽器を見たことあるよ!」と友だちに話したりし、盛り上がっていた。また、保育者がピアノを弾くと、ピアノの音に合わせて楽器を自由に鳴らしたり、楽器を鳴らしながら歌を歌ったりするなど楽しむ姿が見られた。このような子どもたちの姿を受け止め、楽器遊びを通し、さまざまな表現活動を楽しむことができるよう、本テーマを設定した。

2. 活動スケジュール

春頃	保育の中で簡単な楽器を扱う。(鈴、カスタネット、タンバリンなど)
----	----------------------------------

	子どもはよく興味を示し、「もっとやりたい」などと声があがる。
--	--------------------------------

夏～秋頃	楽器遊びがさらに盛り上がり、年長児は打楽器（大太鼓や木琴、シンバルなど）や鍵盤ハーモニカに触れることを楽しむ。
------	---

	クラスによっては楽器を子どもがいつでも触れることができるよう、環境設定を行う。
--	---

	年長児だけでなく他のクラスでもさまざまな楽器に触れ、楽しんでいる。
--	-----------------------------------

	ピアノの音に合わせて自由に音を出すことから合奏へ発展していく。
--	---------------------------------

冬頃	お楽しみ会では、子どもが好きな楽器を選び、披露することに期待をもつ。
----	------------------------------------

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

楽器（タンバリン、鈴、カスタネット、トライアングル、鍵盤ハーモニカ、大太鼓、小太鼓、木琴、シンバル、電子ピアノなど）

※楽器は子どもが好きな時に触れることができるよう、安全に留意しながら、保育室に配置する。（年齢に合わせた環境設定を行う。）

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

4 歳児クラス（年中児）の活動

- ①春頃、保育の中で楽器（タンバリン、鈴、カスタネット、トライアングル）に触れてみる。楽器を扱う時の約束や扱い方、音の出し方について知る。
- ②好きな楽器を手に取り、自由に音を出してみる。音の違いや大きさの違いなどに気付く。友だちと一緒に音を出してみる子もいる。
- ③保育者のピアノ伴奏に合わせ、自由に音を出してみる。
- ④夏から秋にかけ、保育の中で繰り返し楽器に触れる。楽器に触れるだけでなく、楽器を使った音当てゲームや楽器当てクイズ、リズムゲームなどを楽しみ、より楽器に親しみをもつ。
- ⑤5 歳児が打楽器に触れる様子を見て、興味を示す。大太鼓や木琴などに触れ、音を出すことを楽しむ。
- ⑥秋頃になると、お楽しみ会で披露したい楽器を子どもが自分で決める。自由に音を出す→簡単なリズムうちゲーム→クラスでの合奏と発展させていき、楽しむ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

- ・楽器による音の違いに気が付く。また、楽器の扱い方によっても音が異なることにも気が付く。いろいろな叩き方、音の出し方を試してみる。
- ・初めは音を出すことに抵抗を感じる子もいたが、友だちや保育者が楽しんでいる姿を見て、安心して音を出すようになる。笑顔も多く見られる。
- ・音の出し方を工夫する。（連続で鳴らしてみる、友だちと一緒に音を出すなど。）
- ・初めて扱うトライアングルの音を「キラキラする音」「星みたい」と表現する。
- ・カスタネットは、赤の面と青の面で音に違いがあるのか、試す子がいる。

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・気持ちが高まると、楽器の扱いが雑になるが、壊れやすいものであることを知らされると、大事に扱おうとする。
- ・楽器を強く叩き、大きな音を出す子がいるが、大きな音が良いのではないと知らされると、自分で音の強弱を調整する子がいる。
- ・ピアノの伴奏があることで、より楽器遊びが盛り上がる。保育者の伴奏に合わせて楽器を鳴らしながら室内を歩き回ったり、体を動かしたりし、表現を楽しんでいる。
- ・楽器遊びの経験を重ねていくうちに、一人ひとりがお気に入りの楽器を見つけている。お楽しみ会では、好きな楽器を披露することに自信や期待をもつ姿が見られる。
- ・合奏を行う中で、始めは友だちの音を聞かずに自由に楽器を鳴らしている子もいたが、みんなで楽器の音を揃えることで、クラス一体となることを感じ、合奏を通して充実感や満足感を味わっている。



5. 振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

- ・子どもが疑問に感じたこと、興味を示したことを実際に経験できる環境が、子どもの学びにつながっていくことを改めて感じた。
- ・“安心感”から子どもの表現活動が広がっていくことを感じた。保育者も子どもと一緒に楽しむことで、子どもの表現活動もより広がっていくのだと思う。
- ・友だちの姿を見て、模倣したり、一緒にやってみたりすることで活動がさらに発展していく。
- ・“できる”“できない”ではなく“やってみたい”という気持ちになれるような声掛けや援助が大切であると感じた。